

【シニア女性の「推し」に関する実態調査】

**「推し」がいるシニア女性は昨年から約13%増加し47.9%。**

**推しにお金を使っている人は7割強で、一人当たり年間平均使用額は約10万円。**

女性誌部数 No.1 (※1) の雑誌「ハルメク」をグループで発行する株式会社ハルメクホールディングス (本社：東京都新宿区、代表取締役社長：宮澤 孝夫) ハルメク 生きかた上手研究所は、50～81歳の女性461名を対象に「シニアの『推し』に関する実態調査」をWEBアンケートにて実施いたしました。

(※1) 日本ABC協会発行社レポート49.4万部(2022年7月～12月)

【 調査サマリ 】

■現在「推し」がいるシニア女性は47.9%、推しがない人のうち興味ありは39.5%。

⇒現在、「推し」がいるのは全体(461人)の47.9%(221人)と昨年の35.2%から12.7%増加。

推しがない223人のうち、「過去いた」が21.5%(48人)、「今までいなかったが興味はある」が39.5%(88人)。

■「推し」の数は平均2.13。5年以上の“長推し”が56.1%だが、コロナ禍(直近3年以内)で推しに出会った人も32.6%。

⇒現在「推し」がいる221人に推しの数をたずねたところ、平均2.13人/個であった。70歳以上は単数推しが多く、平均は1.81。

⇒また、推している期間については、「5年以上」の長推し56.1%に対し、「5年未満」が43.9%。特に70歳以上が長推し傾向で、「5年以上」が60.4%。

⇒推しに対する思いの強さは、この1年間で「特に変わらない」が66.1%だが、「強くなった」人も30.3%。

■推しにお金を使っている人は7割強で、一人当たり年間平均使用額は約10万円。

⇒現在「推し」がいる221人中「推しにお金を使っている」のは72.4%(160人)で、昨年69.5%より約3%増加。

1年に使う一人当たり平均額も¥102,883と、昨年の¥90,352から¥12,531アップし10万円超え。

⇒費用内訳で昨年より増加したのは、「遠征費(宿泊、交通費など)」や「DVD(BR)、CD、配信などの映像・音楽の購入費」。逆に、「本・雑誌・関連書籍など」はダウン。

■推しがいるゆえの悩みは経済面で増加。

⇒推しがいるゆえの悩みトップは昨年同様「お金がかかる」で23.5%(52人)。昨年17.8%より5.7%増えた。

2位「チケット争奪戦が大変」、3位「時間の確保が大変」は昨年とほぼ変わらず。悩みなしも52.0%(115人)と半数を超えるが、昨年の61.9%(122人)より約10%減っている。

■推しは人生の活力であり、推しがいる人ほど幸福度も高い。

⇒推しがいることの良い点は、「活力、元気をもらえる」「楽しい時間が増える」「生活にハリが出る」がトップ3でいずれも6割を超える。

⇒10点満点で幸福度を聞いたところ、推しあり(221人)のウエイト平均値は8.05と、推しなし(223人)の7.81を上回った。なお、推しがある人のうち80.1%(177人)は、推しのほかにも熱中している趣味や活動があり、その人たちの幸福度はさらに高い8.12であった。

【調査背景】

ハルメク 生きかた上手研究所は、シニアのインサイトについて調査・分析を行っています。コロナによる生活制限が緩和される中で、シニア女性の「推し」の活動はどう変化しているのでしょうか。ますます盛んになっているのか、それとも停滞気味なのか、使う金額は変化しているのか、昨年に引き続き、その実態を探るべく、本調査を実施しました。

【調査概要】

調査の方法：WEBアンケート

調査の対象：50～81歳の全国の女性461名

調査実施日：2023年6月9日(金)～6月12日(月)

調査主体：株式会社ハルメクホールディングス ハルメク 生きかた上手研究所

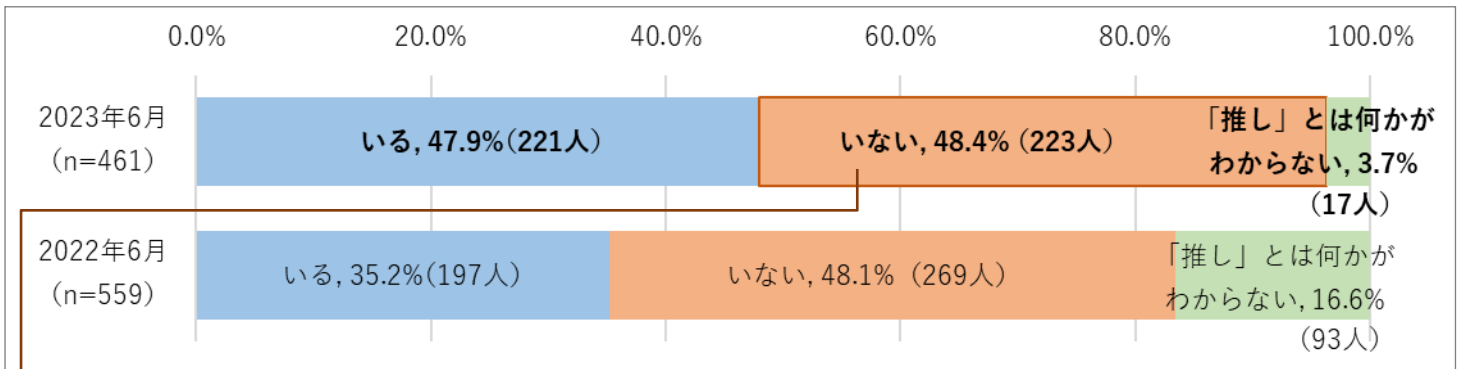
※1 調査結果のパーセンテージは、小数点以下第2位を四捨五入しているため、総数と内訳の合計が一致しないことがあります。  
 ※2 前回調査は2022年6月21日（火）～6月24日（金）50～84歳シニア女性559名を対象にWebアンケートを実施。  
 ※3 調査主体の「株式会社ハルメクホールディングス ハルメク 生きかた上手研究所」所長への取材、コメント提供も可能です。

※本リリース内容を掲載いただく際は、出典「ハルメク 生きかた上手研究所調べ」と明記をお願いいたします。

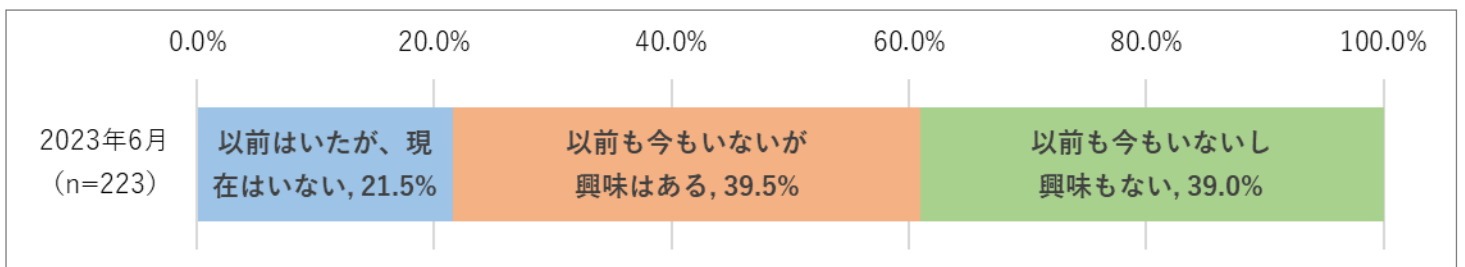
**現在「推し」がいるシニア女性は昨年から約13%増加し47.9%。  
 推しがいない人のうち「興味あり」は39.5%。**

- 現在、「推し」がいる人は全体（461人）の47.9%（221人）と昨年の35.2%から12.7%増加。
- 推しがいない223人のうち、「過去いた」が21.5%（48人）。「以前も今もないが興味はある」が39.5%（88人）。

■現在の「推し」の有無 （2023年：50～81歳女性 461人/2022年：50～84歳女性 559人）



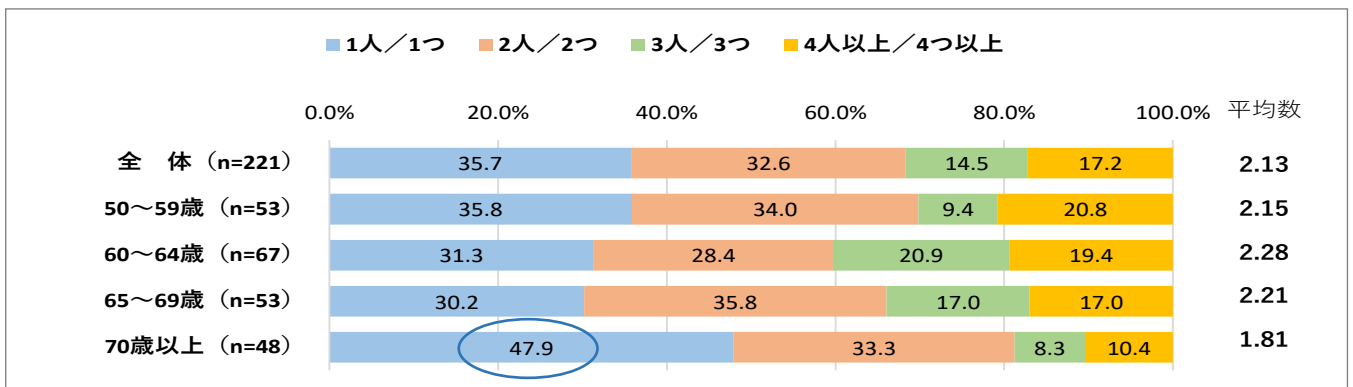
■「推し」の経験×興味の有無 （「推し」がいない50～81歳女性 223人）



**「推し」の数は平均2.13。5年以上の長推しが56.1%だが、  
 コロナ禍（直近3年以内）で推しに出会った人も32.6%。**

- 現在「推し」がいる221人に推しの数をたずねたところ、平均2.13人/個であった。70歳以上は単数推しが多く、平均は1.81。

■現在の「推し」の数 （「推し」がいる50～81歳女性 221人） ※4「4人以上/4つ以上」は「4」として平均値算出

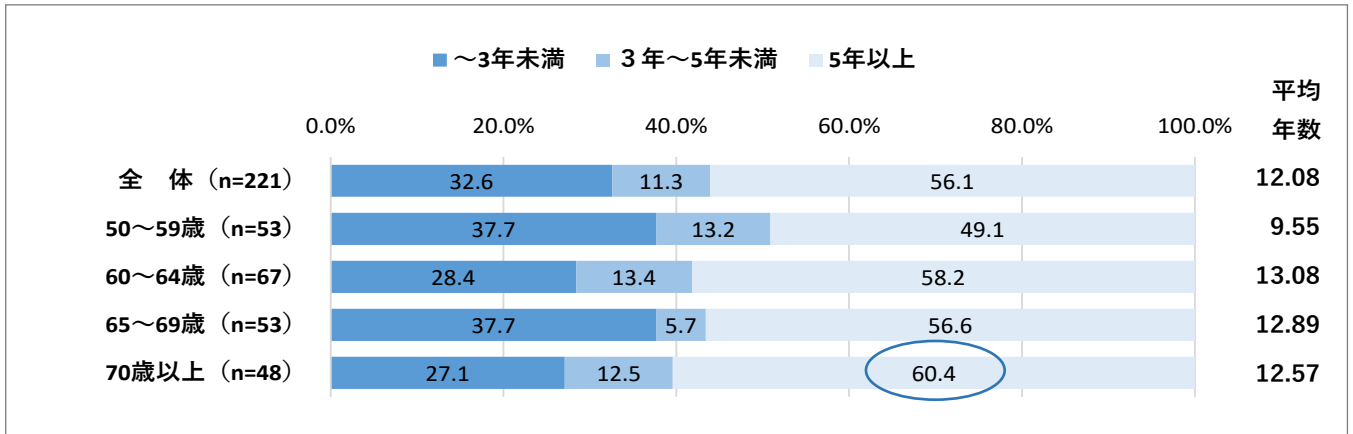


- 推している期間については、「5年以上」の長推し 56.1% (124人) に対し、「5年未満」が 43.9% (97人)。特に 70歳以上が長推し傾向で、「5年以上」が 60.4% (29人)。
- また、「3年未満」とコロナ禍で「推し」に出会った人も 32.6% (72人)。

■ 「推し」している期間 (「推し」がいる 50~81歳女性 221人)

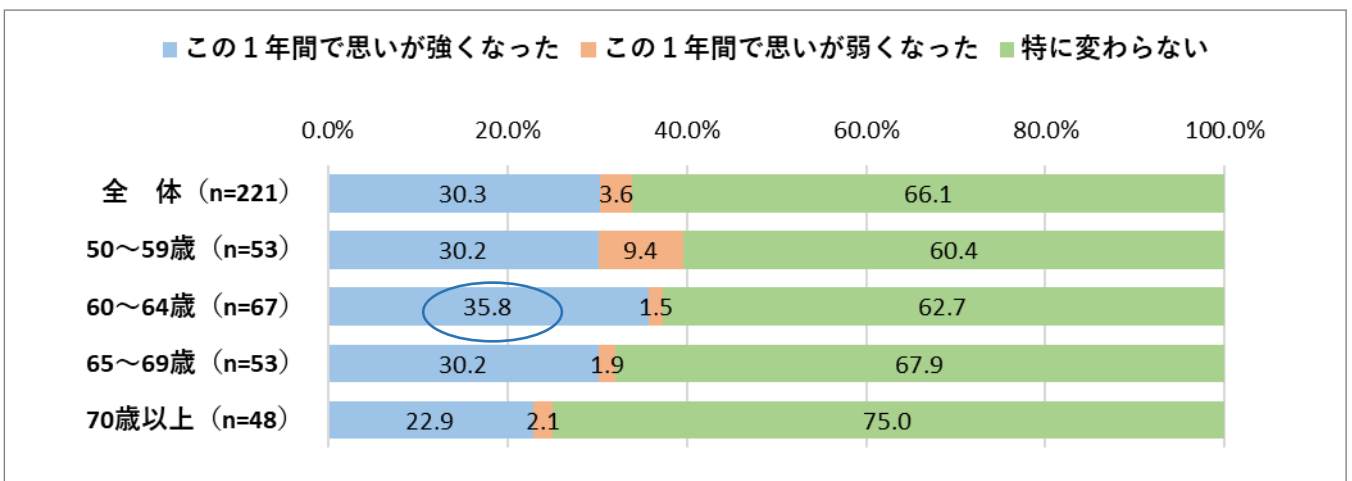
※複数「推し」がある(いる)場合は、1番目の(=最も)「推し」について

※5平均年数は、~1年 0.5、1~3年 2.0、3~5年 3.0、5~10年 7.5、10~20年 15.0、20~30年 25.0、30~50年 40.0、50年以上 50.0で算出



- 推しに対する思いの強さは、この1年間で「特に変わらない」が 66.1% (146人) だが、強くなった人も 30.3% (67人)。
- 年代では、60~64歳で思いが強くなったが 35.8% (24人) と多い。

■ 「推し」に対する思いの強さのこの1年間での変化 (「推し」がいる 50~81歳女性 221人)

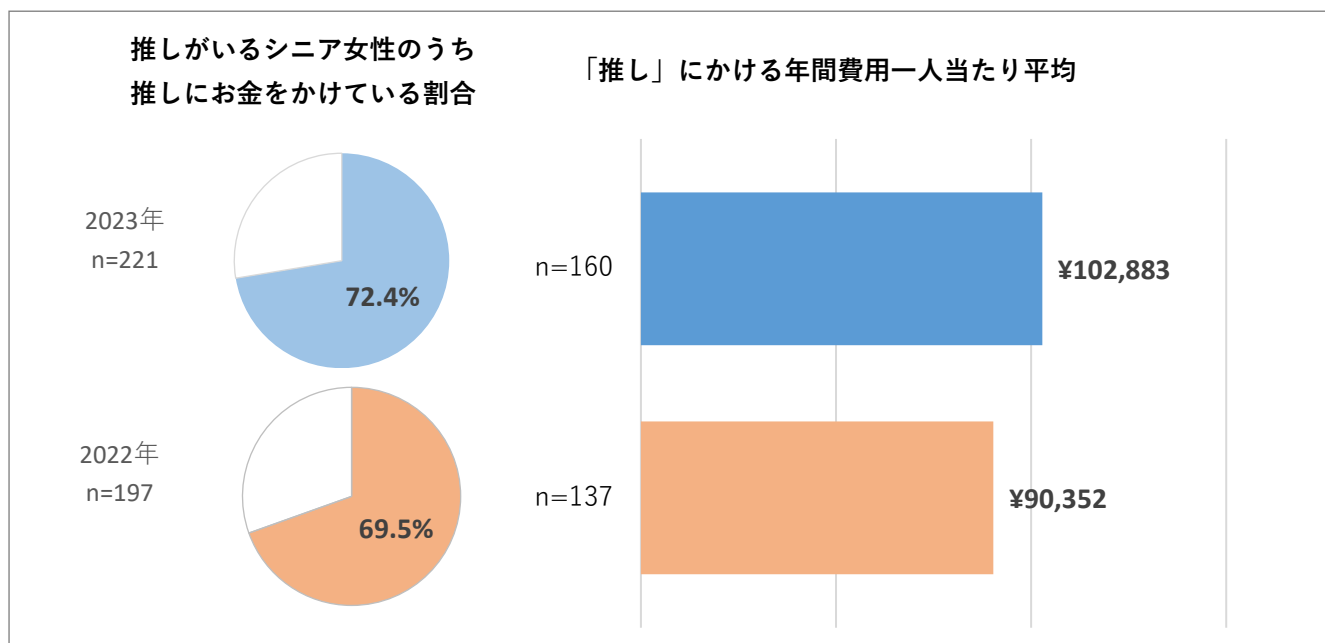


## 推しにお金を使っている人は7割強で、一人当たり年間平均使用額は約10万円。

- 現在「推し」がいる221人中、「推しにお金を使っている」のは72.4%（160人）で、昨年の69.5%（137人）から2.9%増加。
- 1年に使う一人当たり平均額も¥102,883と、昨年の¥90,352から¥12,531アップし10万円超え。

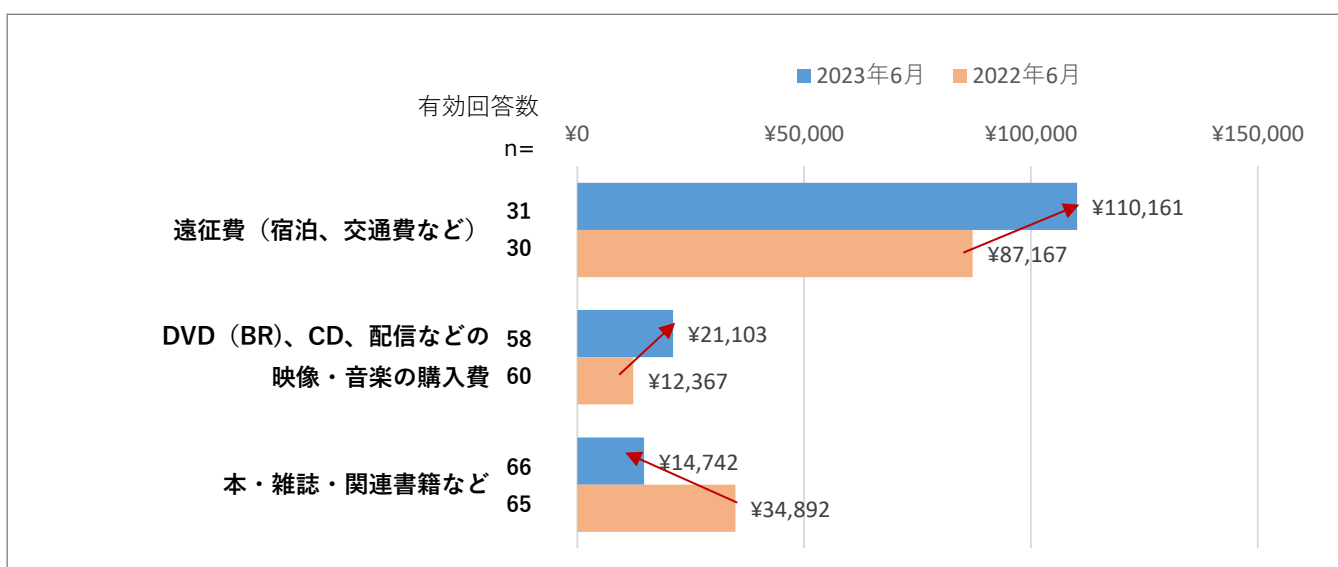
### ■「推し」にお金をかけている割合とかける年間費用

（2023年：「推し」がいる50～81歳女性 221人/2022年：「推し」がいる50～84歳女性 197人）



- 費用内訳で昨年より増加したのは、「遠征費（宿泊、交通費など）」や「DVD（BR）、CD、配信などの映像・音楽の購入費」。それぞれ昨年→今年で比べると、¥87,167→¥110,161、¥12,367→¥21,103。逆に、「本・雑誌・関連書籍など」は、¥34,892→¥14,742とダウン。

### ■年間費用の内訳（一部抜粋）

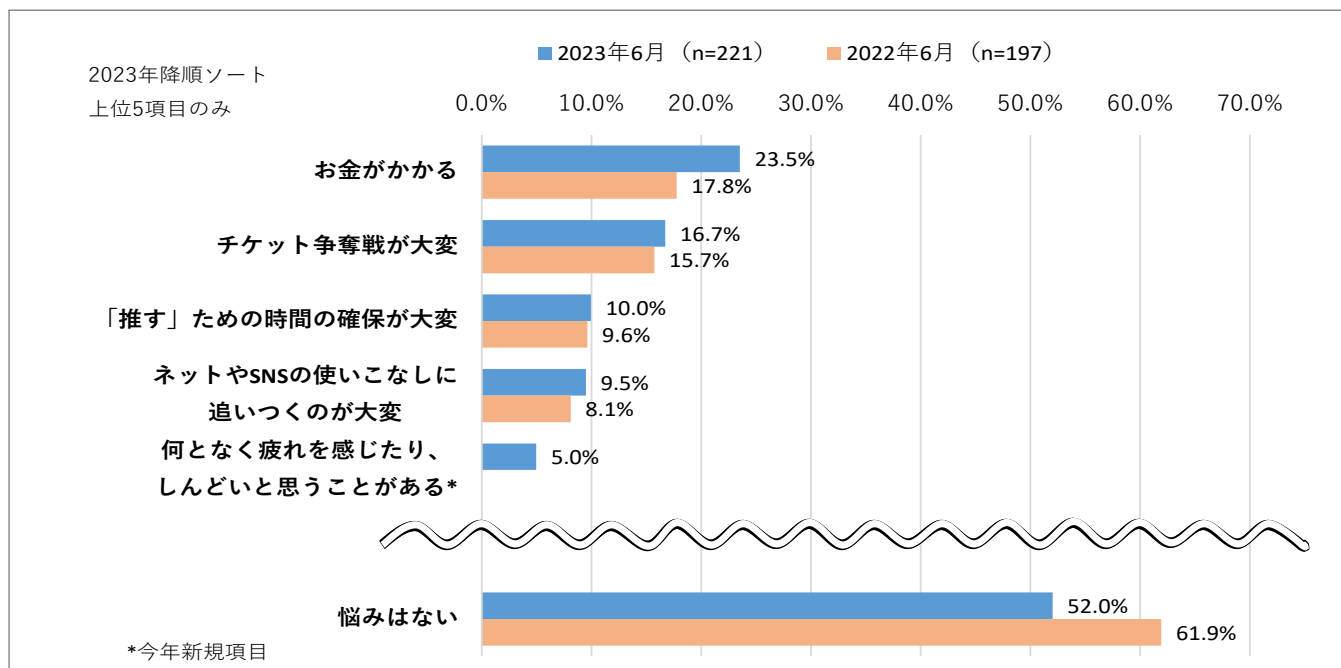


（※6費用は、各項目の年間費用総額を支払者数で除して算出。0円は除く）

## 推しがいるゆえの悩みは経済面で増加。

- 推しがいるゆえのお悩みトップは昨年同様「お金がかかる」で23.5%（52人）。昨年17.8%より5.7%増えた。2位「チケット争奪戦が大変」、3位「時間の確保が大変」は昨年とほぼ変わらず。
- 約半数の52.0%（115人）は「悩みはない」としている。ただし、昨年の61.9%（122人）より約10%減り、悩みのある人が増えている。

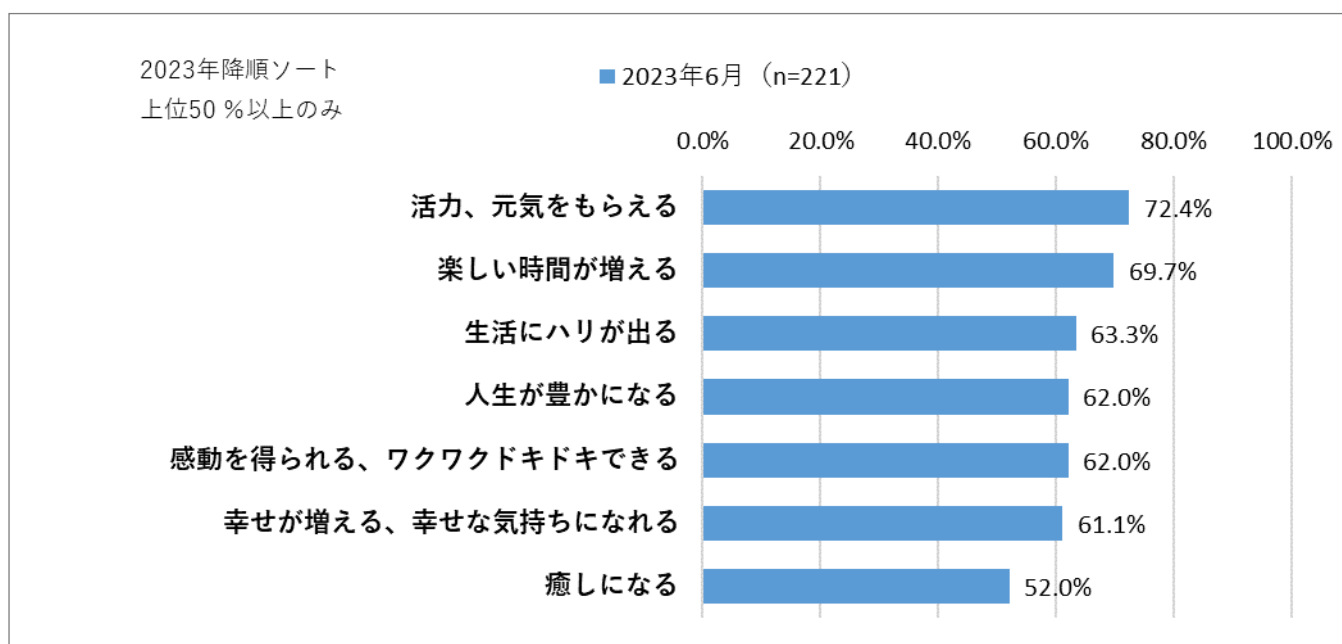
### ■推しがいるがゆえの悩み（2023年：「推し」がいる50～81歳女性 221人/2022年：「推し」がいる50～84歳女性 197人）



## 推しは人生の活力であり、推しがいる人ほど幸福度も高い。

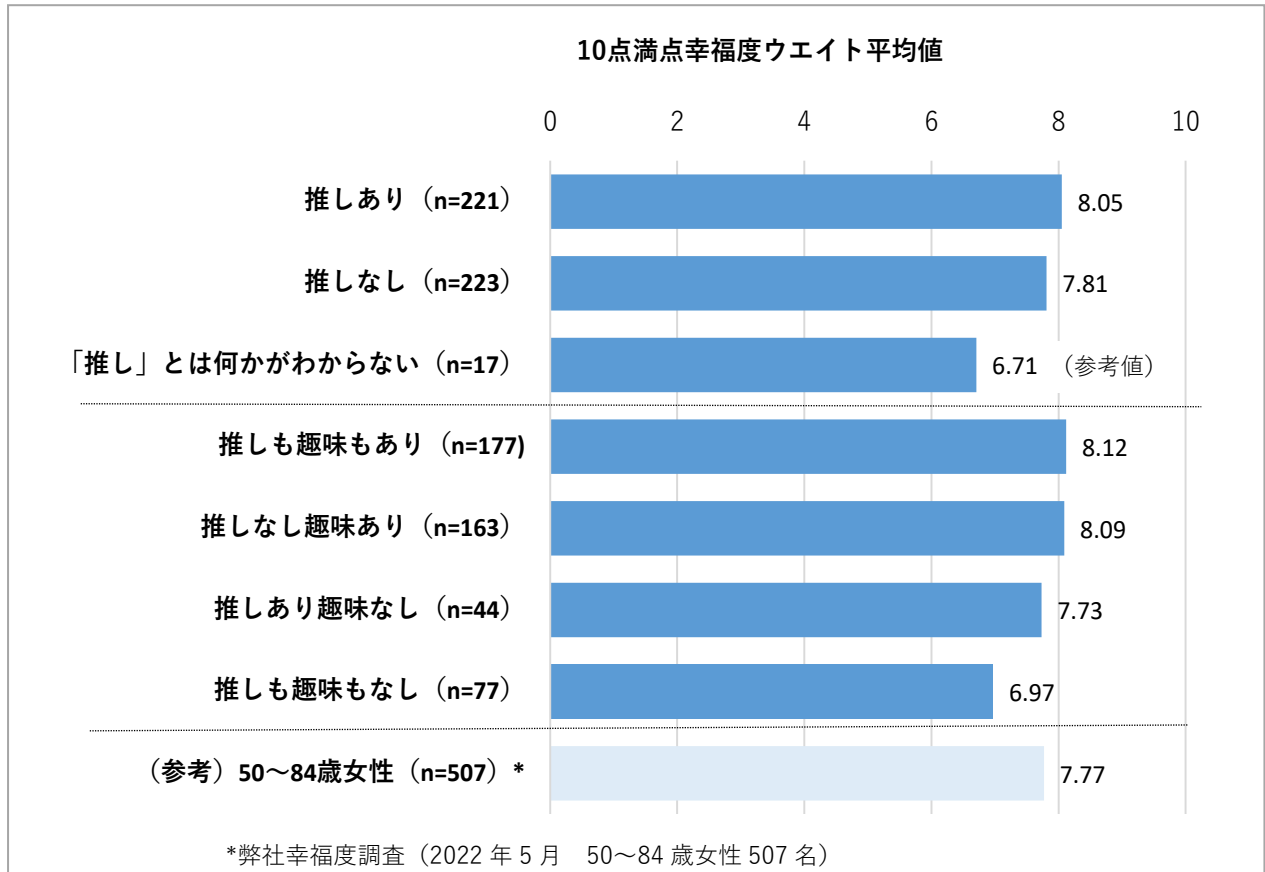
- 推しがいることの良い点は、「活力、元気をもらえる」「楽しい時間が増える」「生活にハリが出る」がトップ3でいずれも6割を超える。次いで、「人生が豊かになる」「感動を得られる、ワクワクドキドキできる」「幸せが増える、幸せな気持ちになれる」も6割以上。

### ■「推し」がいることの良い点（「推し」がいる50～81歳女性 221人）

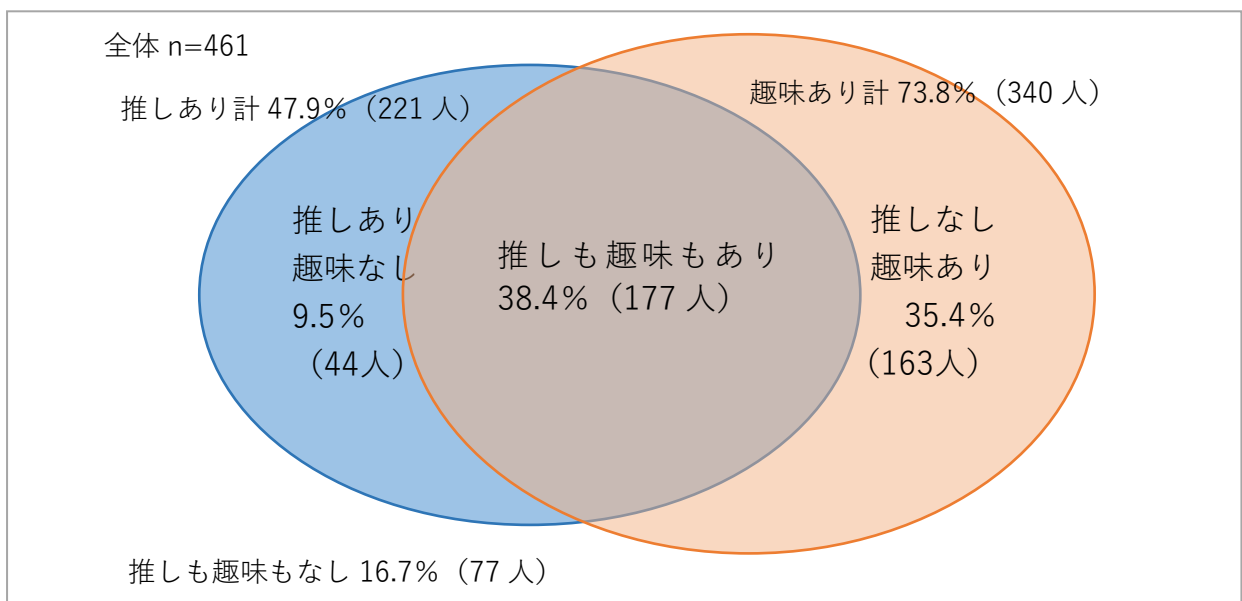


- 推しの有無による幸福度の違いをみるため、10点満点で幸福度を聞いたところ、推しあり（221人）のウェイト平均値は8.05と、推しなし（223人）の7.81を上回った。
- 推し以外の趣味の有無と幸福度との関係を見ると、推しがいる221人のうち80.1%（177人）は、推しのほかにも熱中している趣味や活動があり、その人たちの幸福度は、推しのみの人よりさらに高い8.12であった。次いで幸福度が高いのは、推しはないが趣味がある人で、推しや趣味の存在が幸福度を上げていると考えられる。

■推しの有無×幸福度（50～81歳女性 461人）



■推しと趣味の有無（50～81歳女性 461人）



■「推し」ている人とその推しに対する思い（自由回答から抜粋）

<b>複数推し</b>
藤井風くん、宝塚歌劇団を推しています。生活の大切な一部となって私を支えています。(57歳)
俳優の仲村トオルさんや Kinki Kids の堂本光一さんを推しています。TVに出たときには必ず見えます。チケットが手に入れば、お芝居を見にいったりします。(60歳)
ファンクラブにも入会している、さだまさし、福山雅治さん (65歳)
<b>箱推し</b>
キンプリ。今年の春、とてもつらい日々を過ごしていた時に偶然ティックトックで5人の姿を見て、声をだして笑っている事に気づいた。気分を変えるキッカケとなり、すっかりハマったが、バラエティーで盛り上がるメンバーがぬけてしまい寂しい。残った2人のメンバーを応援しつつ過去の映像で癒やされている。(55歳)
JO1 というアイドルを推しています。偶然テレビで見た、オーディションの最終回に驚き、調べ、そこから応援しています。デビュー直後からのコロナ、小さな事務所、音楽番組に出られない状況など、応援したくなる要素がいっぱいでした。やっと最近ライブができるようになり、テレビでも見かけるようになりました。彼らのおかげで、知らなかった世界を知り、聖地に行き、新しい友人もできました。ひとえに彼らの性格の良さのおかげです。(60歳)
<b>長推し</b>
西城秀樹。私が小学生の時にデビューしてからずっと大好きで、中学生の時にファンクラブに入った……働きだしてからは、駅や空港で、出待ち入り待ち、いわゆる「追っかけ」をしていた。ファンクラブの海外ツアーや国内ツアーにも行った……結婚して子供ができ、思うように追っかけできなくなっても、年に数回のLIVEに行けるのを楽しみにしていた。60歳になったら、また追っかけしようと楽しみにしていたら、HIDEKIが逝ってしまって…今もファンクラブは続行、LIVEがあり、必ず行っている (63歳)
小田和正。大学1年のとき、ラジオからオフコースの曲が流れてきた。一人暮らしで、寂しかったが、心の支えになった。小田さんの曲を聞くと、学生時代が思い出される。ライブには必ず行っている。(65歳)
ユーミン…デビューから50年、変わらず歌い続けていることに励まされます。懐かしい歌、そして新しい歌の数々が心に寄り添ってくれるように思えます (65歳)
アーティスト「スピッツ」：コンサートのチケットが取れたら行く。コンサートなどの映画があれば観に行く。最近では人気が出てコンサートのチケットが撮りにくくなった。20年以上推しているが、べったりというでもない (72歳)
<b>メジャー推し</b>
藤井聡太、大谷翔平。活躍しているから。(67歳)

【専門家の見解】

ハルメク 生きかた上手研究所 所長 梅津 順江 (うめづ ゆきえ)

2016年3月から現職。主に年間約900人のシニアを対象にインタビューや取材、ワークショップを実施





## 多様に広がるシニアの「押し活」は、幸福 Big マーケット

50 歳以上女性の「押し」がいる割合は昨年から 13% 増え、約半数となりました。「押し」への関心や思いも強まっています。「お金がかかる」と悩みが増えたものの、押しに費やす金額も年間で約 10 万円。行動やコミュニケーション、パターンなどが多様になり、活動に幅が出てきました。昨年からの変化では、「複数押し」「箱押し」「長押し」「メジャー押し」の傾向がみられます。代表的なコメントを紹介します。

「お一人は藤木直人さん。ドラマを全部見る。出演情報をファンクラブで得る。もう一つはグループで『三代目 J SOUL BROTHERS』。ファンクラブはもちろんライブは絶対行きます！声出しが出来なかったライブも参戦。ライブが出来なかった時のオンラインライブも全部参戦。CD、DVD、グッズはもちろん購入。（芸能プロダクションの）LDH の街・中目黒のお店にも行っています。老若男女問わず人気があるので職場の若者や主婦の方とも『三代目交流』があったりして会話も増えて楽しいです。三代目のおかげ！」（54 歳）

「歌手の野口五郎さん。50 年前からのファンで、年 1 回はコンサートにも参加しています。昔では考えられなかったブログへの参加など、色々な面から応援しています」（64 歳）

「大谷翔平。WBC 優勝でさらに注目するようになり、来月は（米国の）アナハイムへ観戦に行く。元々、海外ひとり旅が趣味なので、現地で本物を見なければと心が騒いでいる。爽やかで育ちがよく、闘志があってストイックな生活ができる男の子はみたことがない。知るほど好きになる…孫みたいな年齢ですけど（笑）」（70 歳）

お金や時間を惜しまずに押し活をすることで、自らの生活や人生を充実させていて、幸福度が高い様子がかがえます。「押しがいる人ほど幸せ」な傾向は、数字でも明らかになっています。

約 3 年間続いたコロナ禍でデジタルによる押し活が盛んになりました。行動制限がなくなった今、リアルな活動にも意欲的なシニア女性のマーケットは、デジタルとリアルの両輪で、ますます膨らんでいくことでしょう。シニア女性の押し活が、日本経済の活性化のきっかけになるのではないかと。そう言ったら大げさでしょうか。

### ■女性誌部数 No.1！ 50 代からの生きかた・暮らしかた応援雑誌「ハルメク」

50 代からの女性が前向きに明るく生きるための価値ある情報をお届けしています。健康、料理、おしゃれ、お金、著名人のインタビューなど、幅広い情報が満載です。また、雑誌「ハルメク」の定期購読者には、本誌とともに提供するカタログと、オンラインでの通信販売を行っています。販売している商材は、ファッション・インナー・コスメ・美容・健康など多岐にわたり、独自のシンクタンクである「ハルメク 生きかた上手研究所」を通じて利用者の声を徹底的に調査、反映した商品開発で、多くの女性から支持を得ています。



### 誌面情報

ハルメク 8 月号（7 月 10 日発売）は「スマホを簡単・安全・便利についこなす！」の特集です。LINE での会話やネット通販、オンライン予約など、使う場面が増えたスマホの、「あれ？ これってどうするんだっけ」「これで大丈夫かな……」というハルメク世代の疑問や不安にお応えします。

### ■ハルメク 生きかた上手研究所のシニアリサーチデータは、「ハルメク シニアマーケティング LAB」で掲載しています。

「ハルメク シニアマーケティング LAB」は、ハルメク世代（シニア）を顧客とする企業にとって有益な情報をお届けしている情報サイトです。ハルメクグループが提供する定期購読誌や通販等を通じて得たマーケティングデータや記事、シンクタンク「ハルメク 生きかた上手研究所」の調査レポートなど豊富な情報が満載です。